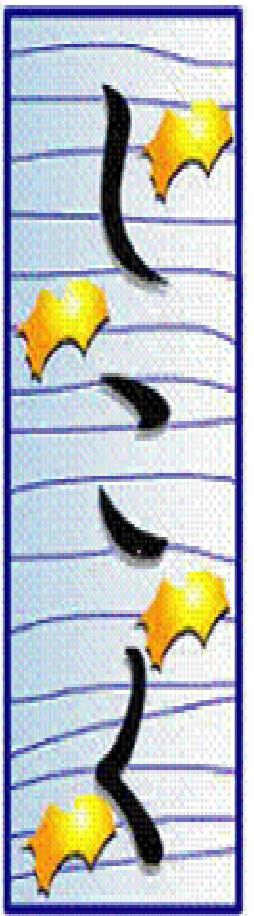


迎春

平成二十四年 元旦



徳島県美波町大浜海岸からの朝陽 写真提供 松本 晋児様



発行所
第14旅団司令部
総務課広報班

(0877) 62-2311

(内線) 252・253

年頭の辞

新年明けましておめでとうございます。

しこく紙を愛読の皆様方には、希望に満ちた健やかな新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中に皆様方から賜りましたご支援・ご厚情に対しまして心から厚くお礼申し上げます。

四国4県の防衛・警備を担任する第14旅団長の職を拝命し、2度目の正月を迎えることになりましたが、弘法大師の生誕地であり軍都としても輝かしい伝統のある善通寺市において清々しい新年を迎えることができず事に大きな喜びを感じております。

さて、わが国周辺地域においては、高い伸び率の軍事費を背景に急速に近代化を推進し、活動地域を拡大し活発化させる中国、また、国際社会の制裁下においても核・弾道ミサイル開発を継続し、延坪島への砲撃事案等の軍事力の使用を辞さない強硬な行動を繰り返す一方で、経済問題等不安定な要因を抱える北朝鮮情勢等に見られる様に、わが国を取り巻く安全保障環境は、引き続き厳しい状況が継続しております。

昨年の我が第14旅団は、大規模かつ長期の厳しい活動となった東日本大震災災害派遣、直島町井島の山林火災、台風12号の被害に伴う和歌山県への災害派遣等に加えて、旅団として初めての国際平和活動となった第31次コラン高原派遣輸送隊の部隊派遣の任務を無事に完遂し、国内外から高い評価を受けることができました。これも、全隊員の真摯な努力と地域の皆様方の御理解、ご支援の賜物であると考えております。

一方、四国区内においては、今後30年以内に東南海・南海地震の発生確率は60%と言われており、いつ発生しても不思議でない状況になりつつあります。

このような状況下、第14旅団は、今春、第3次改編として、第14施設中隊の改編及び高知県から徳島県阿南市への移駐が予定されております。

第14旅団は、この改編事業を整齐と実施しつつ、あらゆる事態に実効性を持って対応するため、「真に戦えるしなやかで逞しい旅団」を合言葉に、全隊員が一致団結して、厳しい任務に直面しても揺らぐことのない精強な部隊の創造に向けて努力する所存であります。

最後に、本年の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ新年のご挨拶と致します。



第十四旅団長

陸将補 井上 武